

平成20年度

横浜市立高等学校 第三者評価書

対象校：横浜市立 南 高等学校

横浜市立高等学校評価委員会

はじめに

横浜市立高等学校は、市民から信頼が得られ、市民の期待に応えることができるよう、学校ごとにマニフェストを策定し、魅力ある、特色ある高校づくりに取り組んでいます。

学校評価をより有効に実施するためには、自己評価を柱とする P・D・C・A (Plan・Do・Check・Action) マネジメント・サイクルを確立するとともに、各高校の自己評価と自己改善を高めることができるよう、学校関係者評価及び第三者評価を組み合わせて行うことが必要です。

第三者による客観的・専門的評価を行うことで、学校の自己評価の精度を高めることが期待できます。

高等学校は義務教育とは異なり、入学者選抜を通して、生徒や保護者から選択される必要があります。第三者による客観的評価とその評価の公表は、選択されるための信頼を確保する 1 つの指標になるものと考えております。

平成 21 年度からの本格実施を前にして、本年度は試行として、南高等学校を対象に「第三者評価を活用した学校評価」を実施しました。学校から提出された自己評価書や評価結果のまとめなどの書類調査、そして、2 日間にわたって南高等学校を訪問し、朝の登校風景から夕方の部活終了時まで、授業参観や管理職からのヒアリング、生徒インタビュー等訪問調査を実施しました。

この第三者評価書は、その結果をもとにした評価をとりまとめ、作成しています。

本高等学校評価委員会での評価結果を基に、南高等学校の教育活動及び学校運営が効果的に改善され、さらに、横浜市立高等学校全体が魅力ある、特色ある高校となることを期待しています。

平成 21 年 3 月

横浜市立高等学校評価委員会 委員長

国立大学法人 横浜国立大学 教育人間科学部教授 福田 幸男

目 次

はじめに

I	学校経営の状況 1
1	学校の管理運営等の状況	
	(1) 組織運営の状況	
	(2) 学校経理の状況	
	(3) 施設・設備の状況 2
2	学校・保護者・地域の連携協力の状況	
	(1) 危機管理の状況	
	(2) 学校に関する情報公開の状況 3
	(3) 保護者・地域住民等との連携協力の状況	
II	教育活動の状況 4
1	各教科等の状況	
	(1) 教育課程の状況	
	(2) 教科指導の状況	
	(3) 進路指導の状況 5
2	生徒の状況	
	(1) 生徒指導の状況	
	(2) 特別活動の状況 6
	(3) 環境教育の状況	
III	学校の総合評価 7
 <参考>		
	横浜市立高等学校評価の体系図 8
	平成20年度 横浜市立高等学校評価委員会 開催状況	
	横浜市立南高等学校訪問調査	
	横浜市立高等学校評価委員会 委員構成 17

I 学校経営の状況

1 学校の管理運営等の状況

評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

講評

(1) 組織運営の状況

- 校務分掌、年次（学年）団、各種委員会等、縦・横にわたり、各セクションの「努力点」及び「年度末反省」などを、それぞれの組織から出されたものを冊子にまとめ、課題・問題点等が明らかにして、学校をあげて改善を進めている。
- 教育目標の具現化に向け、効率的な組織運営ができるように、学校組織の統廃合や見直しをして、教職員が余裕を持って学校教育に当たることができるよう組織改革を推進することを期待する。
- 運営委員会が職員会議の議題調整の役割となっているに過ぎず、本来担うべき、学校運営の戦略会議となっていない。（注 南高校では、「運営委員会」は「職員会議の議題調整機関」として設定されている。）

また、その役割を持たせている将来構想委員会の果たすべき役割が希薄である。市立高校の今後の組織運営の改善のためには、旧来の分掌から、組織マネジメントのための組織への転換が必要と考えられる。

(2) 学校経理の状況

- 学校経理については、マニュアルに基づき、適正に管理されている。今後も、学校に対する信頼を高めるため、適切な対応、厳正な事務処理を期待したい。
- 公表された平成19年度の学校配当予算決算書によると、年度当初配当額を修正し、消耗品費では46.7%増の8,500千円弱の決算額となっている。これは学校運営振興費予算（総額15,364千円）の半分以上になり、特に印刷関係消耗品費類がかなりの部分を占めると思われるが、教科・科目ごとで統一、精選し、また、印刷枚数など必要最小限に抑えることなど、全教職員が「消耗品削減意識」を徹底し、無駄をなくす努力が求められる。
- 光熱水費については、配当額33,888千円に対し、支出額33,098千円と、概ね良好な状態を保っているが、昨今の厳しい予算状況から「1割削減」等の目標を設定し、例えば、使用する校内の電気・ガス・水道設備の所へ削減ポスター等を貼るなどPRに努め、全校で取り組む必要がある。
- 全体的に見ると、厳しい予算状況の中にありながら、50千円の剰余金を出すなど、苦心の努力の跡が見られる。

(3) 施設・設備の状況

- プラネタリウム、合宿等ができるセミナーハウス、400名の座席を有する南高ホール、さらに各教科の職員室前には教科センターがあり、生徒が質問や相談などが気軽にできる学習環境も整っている（教科センターには個別学習ブースも手作りのものが設置）など、施設・設備は充実しており、施設の管理についても適切に行われている。
- 単なる講義等による習得型の学習だけでなく、活用型の学習への授業の改善とも相まって、各教科における視聴覚機器の活用やIT活用による展開などを充実できるように整備を進めていく必要がある。図書館の書棚の増設を検討すべきである。
- 中廊下式のHR教室は、廊下側には窓がなく、空調があっただけの施設となっており、空調設備の設置は、「喫緊の課題」である。
- 学校全体として、平成3年全面改築後、現在に至るまで、大きな破損箇所等はなく、大切に使用されている状況が伺える。今後、備品・施設・校地関係の修繕料は、経年劣化とともに増えていくことが予想されるので、予算配当の増額等、支援が必要である。

2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

評 価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

講 評

(1) 危機管理の状況

- 緊急時の安全対策にも配慮されており、避難経路の指示なども適切に対応できているが、生徒自身の危機管理意識は低い（30.5%）。避難訓練等は繰り返し実施し、身の安全の確保等、危機管理意識を高める指導が大切で、今後の指導に期待したいと思う。
- 保護者の「警報発令時の対応が具体的に知らされていますか」の項目では、61.9%とやや低い数値ではあるが、昨年より10%アップ（18年度51.6%）しており、周知が図られてきた様子が見られる。
- 「成績やプライバシーなど、秘密を守ってくれますか」の項目では、77.1%と高い数値が示され、個人情報保護の取り組みが浸透している様子が伺える。個人情報の取扱いについては、明確なマニュアルに基づく取扱いのルール化が求められる。教育委員会として共通のルールを定め、適切な扱いを徹底することが必要である。
- 通学時の生徒は各人で交通安全に心がけており、通学バス内でのマナーなども問題はなかった。

(2) 学校に関する情報公開の状況

- 受検生である中学生への情報の提供は、高校の場合、最も重要な使命である。学校説明会の案内や、3年間の学習内容、生徒指導、進路指導などを、よりわかりやすくすることを求めたい。
- ホームページには、南高校の教育課程や学校行事、部活動など、多岐にわたり詳細かつ最新の情報が掲載されている。また、学校経理の状況なども、「平成19年度学校配当予算決算報告書」及び「平成20年度学校予算執行計画書」等により公開されている。
- 保護者には「学園広場」を毎月作成・配布して、学校の情報を積極的に提供している様子が伺える。これは保護者の「学園広場の内容は適切であり、理解しやすいですか」の評価項目で、87.6%と高い評価を受けている。

(3) 保護者・地域住民等との連携協力の状況

- 保護者と学校との連携協力状況は、PTA総会、保護者懇談会（年4回）、三者面談（年2回）、合同保護者会など、かなりの機会を設けている。
しかし、保護者への「南高は保護者や地域の人たちと話をする機会を持っていますか」の項目では、<16年度⇒64.5%、17年度⇒74.3%、18年度⇒70.6%、19年度⇒67.2%>という状況が見られ、教職員との対話の機会を求めていると思われる。
- 学校評価委員のメンバーの中に地域町内会等の代表者がいないなど、地域との連携・協調関係を保つ上で気がかりな点として挙げられるが、学校開放事業等を通してセミナーハウスを活用した地域コミュニティの醸成を図る下地はできていると考えられるので、地域住民を学校に呼込むPR活動に力を入れれば、連携、協力活動が活発に行われると思われる。地域の教育力を活かした学校経営について考えていくことが求められる。
- プラネタリウムや南高ホールは、地域の小・中学校等にも開放され、またセミナーハウスは学校開放事業として日常的に利用されている状況が見られる。近隣小中学校・幼稚園・保育園などとの交流や教育活動の一部では連携が行われているようだが、まだ積極的に取り組めると思う。
市立高校だからできることをお願いしたいと思う。市立の教職員同士が小・中・高の組織の違いを理解しながら、歩み寄った活動に積極的に目を向けていただければ、子どもたちはもっと育つと思う。

II 教育活動の状況

1 各教科等の状況

評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

講評

(1) 教育課程の状況

- 平成 15 年度より単位制を導入し、生徒個人の進路希望・興味・関心に応じた選択制を取り入れ、生徒より約 80%の肯定的回答を得ている。この率は 3 年連続で上昇している。
学年制とは異なる単位制高校としてのカリキュラム編成と選択指導を充実するためには、適切な科目の設置とガイダンス機能の充実を図り、生徒の進路希望・興味・関心を十分に受け止められる制度設計を目指すことが望まれる。
- 総合選択科目の中で、南高校が独自に展開する、教員を目指す生徒のための「教育基礎」に、その成果を注目したい。「教育基礎」は、子どもとの関わり等のコミュニケーション能力の育成を目標とし、協調性や思いやりを育むため、グループ討議、校外学習(小・中学校等)を主体に学習する科目となっている。
- 生徒の「進路選択上必要な科目や興味・関心を満たす科目が設定されていますか」の評価項目では、80.4%と満足している状況が示されているが、教育課程の編成を再検討し、学校教育目標である「基礎学力の充実と主体的に学ぶ態度の育成」をより高いレベルで実現することが望まれる。
- 大学進学を文系にするか理系にするかを、事実上、1 年次の後期に決定することになっているようで(生徒とのインタビューから)、1 年次はほとんど必修科目となっていることを考慮すると、少し選択科目に挑戦してから、進路決定をするような教育課程も考えられないか。

(2) 教科指導の状況

- 平成 19 年度より「授業力向上研究指定校」として、職員研修、研究授業などを実施し、授業改善に努めていることを評価する。生徒による各教科の総体的な授業評価は、保健体育、芸術、家庭は評価指数が高く、国語、地歴・公民、英語は概ね良好なのに対し、理科と情報は低く、理科の課題として、「根本的な時数不足による授業進捗の問題点が指摘され、教育課程の変更を含め、学校全体として取り組むことが必要」を訴えている。情報では、「中学校での既習内容にばらつきが大きいこと、苦手意識を持つ生徒が多いことなどから、個別指導の学習カルテを作成し、きめ細やかな指導をするとともに、実習では、より身近な題材を取り上げ、生徒同士が互いに教え、学び合う協働学習をする授業を展開する」など、今年度以降の取り組み・改善に期待したい。
- 各教科とも、生徒からの評価を真摯に受け止め、今後の課題として、「授業内容の精選、説明・指示の的確化、教材の工夫」など、生徒が満足し、学習効果が上がる授業を目指し、授業改善をすすめようとする姿勢が見られる。

- 生徒の自学自習に関しては、学習の場としての図書室は十分に整備されているが、家庭学習が目標値を下回っている。部活動等との関係で、家庭での学習時間の確保が難しいことが想定される。対応について検討すべきである。

(3) 進路指導の状況

- 総合的な学習の時間を使い、1～3年次まで、年次別「進路指導の手引き」を活用し、将来の進路実現に向け、系統的に、きめ細かな進路指導を実施している。20年度からは「基礎学力検査及び学習環境調査」を実施し、また全国規模の模擬試験を行い、客観的な学力の状況を生徒に認識させる」などの改善が図られている。
- 進路指導部が中心となり、長期休業中の組織的な補習等も実施しており、「3年次を中心に多くの生徒が参加し、学力向上に成果が見られ、今後は日程・時間等の調整をしてさらに充実したい」など、積極的な取り組みをしているため、4年制国公立大学（H18⇒19名、H19⇒25名、H20⇒31名）や私立難関大学等への合格者も飛躍的に伸びるなど、一定の実績を上げている。
- 「総合的な学習の時間」を利用して、3年間に渡る計画的な進路指導が展開されている。ただし、必ずしも十分に活用されていないとの生徒による評価がなされていることから、進路ガイダンスの在り方についてはさらに検討する必要がある。進路指導に関しては、職業選択を含め、自らの将来をどのように考えるかが問われる。安易な選択に陥らないよう特段の指導を願いたい。きめ細かな指導には、過去の進路指導のデータ等の客観的なデータの収集と効果的な活用が求められる。
さらに、部活動に見られる生徒の熱意を大切にしながらも、進路に関する夢を実現するために、家庭での学習時間の確保などを含めて学習指導の充実が望まれる。
- 「教員を志す」生徒を対象とする科目の設定は他校にないことから、注目に値する。「生徒の志」を大きく育てるためには、関連する大学や、教育機関との緊密な連携・協力を考える必要がある。

2 生徒の状況

評 価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

講 評

(1) 生徒指導の状況

- 人権に関する講演会、教職員の人権研修も計画的に行われているが、保護者には十分に伝わっていない面が指摘される。生徒指導に関しても取組みを評価するが、学校のみならず、家庭や地域との連携協力が不可欠であり、学校の指導方針や実際の教育を十分に理解してもら

う必要がある。

- きちんと挨拶ができる南高校生は、学内のみならず地域との結びつきを強める存在である。
- 不登校、保健室登校についても、低い割合である。対応の適切さの現れでもあるが、学校カウンセラーの活用を含め、一層の対応が望まれる。予防や初期の適切な対応が肝心である。
- 生徒の「学校生活は充実していますか」の評価項目は 82.4%、また「南高に入学して学校生活に満足していますか」の評価項目では 77.2%と、生徒の学校生活への前向きな姿勢が感じられ、学校における基本的な生活習慣は確立されており、また仲間とのコミュニケーションもできており（評価指数 89.1%）、生徒同士のトラブルもなく、人間関係も良好で、問題行動を起こす生徒もほとんどいないように思われる。
- 昨今の普通科高校等の生徒指導の内容が、外見的問題から内面的問題へと変質し、心の悩み、不登校など専門的な指導を要する生徒が増えている。このような状況に対応するため、南高校における生徒指導相談窓口として、スクールカウンセラーの配置を検討すべきである。

(2) 特別活動の状況

- 学校教育目標に「自主自立の精神を培い、調和のとれた人間の育成を図る」とあり、学習活動を中心として、学校行事や部活動などの特別活動も重視し、「知・徳・体」の調和の取れた生徒の育成を目指している。学校行事の主なものとして、6月の南高祭<体育祭の部>、合唱コンクール、7月の球技大会、9月の南高祭<舞台・展示・後夜祭の部>、10月の2年次修学旅行<北海道ファームステイ>、12月と3月の球技大会などがあり、その他生徒会活動等もあり、活発な活動が行なわれている。
- 部活動では、文科系 14 団体、運動系 18 団体と多く、それらの部活動に、全校生徒の 87.2% が何らかの部活動に参加し、大きな大会等にも出場するクラブもあり、活発な活動状況が見られる。
- 学校行事が多く、生徒が忙しく感じ、落ち着いて学習できる環境にするため、今後は授業時間とのバランスを考え、学校行事を見直し、精選・統合するなどし、また部活動にも力を入れすぎているきらいがあり、下校時間や試験期間中の活動の制限等、学習環境をもう少し重視した学校生活を考えていく必要があると思われる。

(3) 環境教育の状況

- 環境美化委員会を中心に、ゴミの分別に取り組み、また、保健体育や家庭科で地球環境を考えた生活実践能力育成の授業を行っている。
- 生徒の環境美化委員会や教職員で、ゴミの分別、紙などの資源再利用や無駄使いの抑制に努めるなど、また、科目では保健、家庭基礎などで地球環境を考えた生活実践能力の育成を目指した授業を展開している。ただし、その成果は必ずしも十分には発揮されていない。今後、日々の活動実践を通じた環境に対する意識の涵養と、環境教育の一層の充実が望まれる。

Ⅲ 学校の総合評価

優れている	良い	おおむね満足	要改善
-------	----	--------	-----

講 評

学校行事や部活動も活発で、生徒、保護者の評価は「ほぼ満足」となっている。教職員もそうした要求に一生懸命応えようとしており、その努力と熱意に敬意を表したい。

南高校では、他校に先駆けて平成 16 年度から学校評価に取り組み、PDCA サイクルにより学校改善に積極的に取り組んできた様子が伺える。

「生徒による授業評価」の分析結果によれば、授業の満足度の向上と家庭学習の充実が課題であることがわかる。

授業の状況に関しては、「授業力向上研究校」として授業力の向上に向けて努力と開発に努めている姿はあるものの、教え込み型の授業や生徒の自発的学びを奨励するような工夫がやや不足している授業については改善を期待したい。

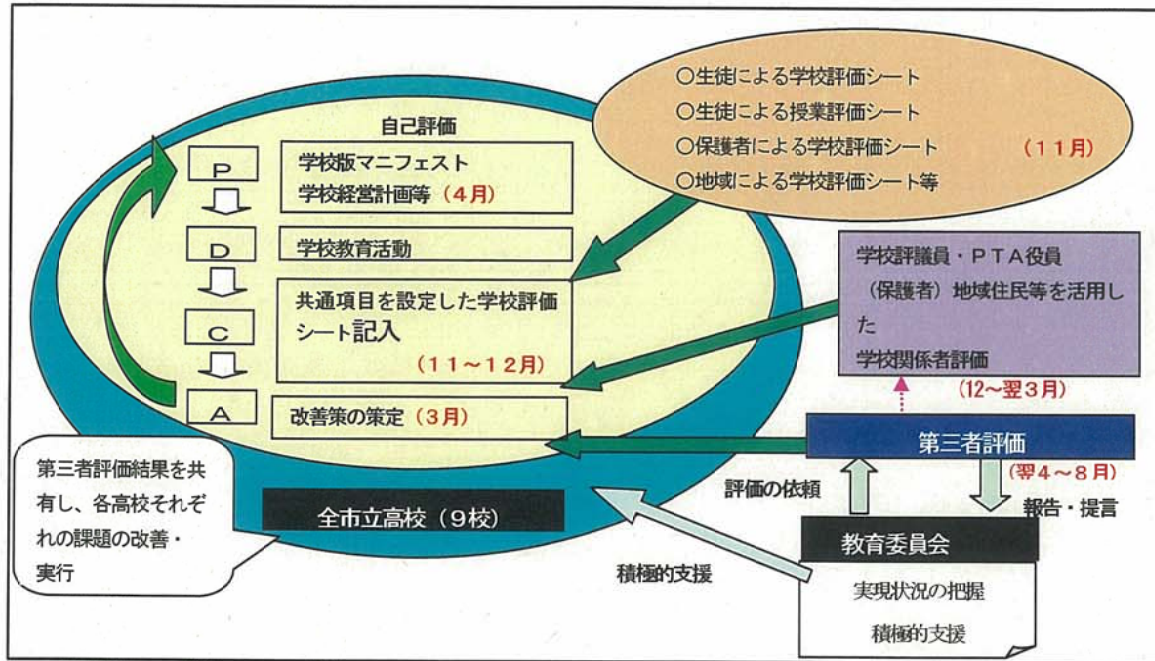
授業内容の精選、説明・指示の的確化、教材の工夫など、一層の授業改善が今後の取り組むべき課題である。

進学実績は一定の成果を上げてはいる。しかし、学校行事や部活動に偏りが見られ、生徒の学力を伸ばしきれていない傾向が伺われる。

学校行事や部活動に費やす時間と、家庭学習など自学自習の時間確保のバランスを改善することも大きな課題である。学校としてのバランスと授業力の向上によって、資質の高い生徒達の学ぶ力の向上が望まれる。今後、夏季休業中の補習の充実等、学力向上に向けた更なる改善が必要と思われる。

客観的な学校環境と入学してくる生徒の質は高いのであるから、南高校にはより水準の高い教育成果を期待できると思われる。個人及び教科や学年での研修などを一層盛んにし、授業力の不断の向上に期待する。市立高校として、さらに特色ある教育を展開し、生徒の夢を大きく広げる場となることを期待したい。

◆ 横浜市立高等学校評価の体系図



◆ 平成20年度 横浜市立高等学校評価委員会 開催状況

<第1回評価委員会>

日 時	平成20年6月30日(月) 17時00分～18時50分
開催場所	関内駅前第1ビル2階 202会議室
出席者	福田 幸男、小松 郁夫、上野 淳、千賀 重義、石井 紀光、稲田 廣 長島 由佳、遠又 安雄
議 題	1 委員長、副委員長の選任について 2 横浜市立高等学校の学校評価について 3 横浜市立高等学校評価委員会の平成20年度の調査・評価について
決定事項	1 委員長は福田委員、副委員長は小松委員、千賀委員の2名とする。 2 平成20年度の市立高等学校評価は試行として実施し、調査対象校を南高等学校とする。南高等学校の書類調査は委員全員で行い、訪問調査は、福田委員長、小松、千賀両副委員長の3名が行う。他の委員は同行しても良いこととした。
委員の 主な意見	1 横浜市立高等学校の学校評価について ○自治体によって設置者と学校との関係は、少々違いがあるが、設置者との関係の中で、教育委員会の立てた方針なりをどのように実現できたかを評価できるのは、第三者だと考えられる。 ○学校教育法施行規則に、評価の公開については定められている。第三者評価も公表することで、教育委員会として学校支援の優先順位が明確になると思う。 ○教育委員会は第三者評価を一つの武器にして、財政当局と戦う場面もあると思われる。 ○第三者としてどういう支援が出来るかという視点で高校を評価すればよい、大学でも評価疲れしている。評価疲れにならないように支援していきたい。 ○各高校が意欲を持って、取組めるならば学校評価も素晴らしいものになる。 ○小学校の研究授業には地域の人も入って、授業後の反省会に参加して意見を言っている。別の視点から、授業について意見を述べることは大変興味深し、教職員にとっても大変有用と思う。 ○学校を評価するということは、現場に行ききちんと見るということが大切だと思う。一日学校にいと、生徒の変化も見え、学校に対する理解も深まる。

委員の 主な意見	<p>○現場を見ることはもちろん大切だが、第三者評価の基礎となる自己評価をしっかりと作っておいていただきたい。第三者としての責任を持つうえでも、自己評価書がしっかり出来ていることが必要。</p> <p>2 横浜市立高等学校評価委員会の平成20年度の調査・評価について</p> <p>○書類審査の基となる資料がないと、評価がしにくいと思う。当該学校の分掌の活動内容など、具体的な資料がないと、自己評価書だけでは評価できない。</p> <p>○文武両道というスローガンがあるとして、運動系部活動への入部率が、学年が上がって低下していくような状態であれば、その理由を検証すればよいし、特徴のある部活動があったとして、その部の顧問の先生が異動したときに、校長はその部活動のためにどのようなケアをしたのかなどが大切である。</p> <p>○第三者評価を行うことで学校のPRになる面もある。第三者がお墨付きを与えることで、受験生が学校選びの際、評価書が参考資料にもなる。</p> <p>○評価資料作りで時間を取られ、先生方が子どもに向き合う時間がなくなるようになってしまっは本末転倒である。</p>
-------------	---

<第2回評価委員会>

日 時	平成20年9月30日(火) 17時00分～18時30分
開催場所	関内中央ビル5階 5A会議室
出席者	福田 幸男、小松 郁夫、千賀 重義、上野 淳、田中 時義、稲田 廣、長島 由佳、遠又 安雄
議 題	<p>1 南高等学校の書類調査について</p> <p>2 南高等学校の訪問調査の課題整理について</p>
決定事項	<p>1 本日の会議を非公開とする。</p> <p>2 自己報告書を訂正し、訪問調査前に委員に送付する。</p> <p>3 訪問調査における質問内容を事前に委員から出してもらい、学校に伝えておく。</p> <p>4 訪問調査は、10月22日午前と24日午後の2日間で行い、調査内容を重複しないように行う。22日は小松副委員長、長島委員、田中委員、24日は福田委員長、千賀副委員長、遠又委員で行う。</p>
委員の 主な意見	<p>1 南高等学校の学校評価について</p> <p>○「自己評価書」と「評価のまとめ」が内容的につながらないように思える。つなげてもらえれば、「自己評価書」はもっと分かりやすくなると思う。</p> <p>○元になるデータがどこにあるかということを示す。また、質問項目とつながっていないと評価できない。</p> <p>○現時点でどういう課題があって、今年はどういうふうにし、更なる改善点はこうである、ということ整理すれば、年間の取り組みも明らかになるし、具体の手立ても明確になる。そうでないと、PDCAサイクルに乗せられない。</p> <p>○将来的には教師個々人の評価が大切。公開しないで良いから、教師個々人に戻して、その反省を元に、先生一人ひとりのディベロップメントを上げていくというサイクルを働かせることも大切。教員個人の評価結果を並べて公表するようなことはしてはいけない。</p> <p>○環境や施設面からの評価も入れてほしい。また、生徒や保護者からはアンケートを取っているのだから、現場の教員からも一人ひとりからも評価を取ってほしい。</p> <p>○学校として特徴のある部分について評価項目を立てた方がよい。単位制、2学期制、ファームステイなどについて生徒に聞く項目を立てて、特徴や特色を骨組みにして評価することは大切。</p> <p>2 南高等学校の訪問調査の課題整理について</p> <p>○基本的に1日見るということで、午前と午後の組み合わせで訪問調査を行なう。</p>

委員の 主な意見	○生徒の朝と帰りの様子を見ることは大切。登下校の風景は大切で、学校がよくわかる。 駅からバスに乗るような学校があれば、一緒にバスに乗ると生徒の様子がよくわかる。 ○学校の素顔が見れることが大切。査定に行くわけではなく、「自己評価書」の内容に偽りはないことを確認する。これを機会に教育委員会が支援するという、学校支援型の第三者評価としたい。
-------------	---

<横浜市立南高等学校訪問調査>【第1日目】

日 時	平成20年10月22日(水) 午前8時から午後1時20分
視 察 者	玉川大学教職大学院教授 小松郁夫、神奈川県立横浜緑園総合高等学校長 田中時義 横浜市PTA連絡協議会副会長 長島由佳
対 応 者	学校長 手老貞行 副校長 金山康男、緑川あつ子、総務主任
時 程	8:00 京浜急行 上大岡駅 1番バス乗り場集合 8:05 京急バス 南高校行に乗車し、乗車する生徒の様子を観察 8:15 到着後「くすの木広場」で、登校する生徒の様子を観察 8:30 挨拶(学校長) スケジュール説明(副校長) 8:35 施設・授業見学(1校時・2校時の授業) 10:15 管理職等へのヒアリング 1 学校の管理運営等の状況(10:15~10:45) (1)組織運営の状況 (2)学校経理の状況 (3)施設・設備の状況 2 質疑応答(10:45~11:15) 3 学校・保護者・地域の連携協力の状況(11:15~11:45) (1)危機管理の状況 (2)学校に関する情報公開の状況 (3)保護者・地域住民等との連携協力の状況 4 質疑応答(11:45~12:15) 12:25 昼食(12:25~13:10) 生徒へのインタビューを含む(12:25~13:10) 13:20 終了
ヒアリング 内容	1 学校の管理運営等の状況 (1)組織について ○運営委員会のメンバー、頻度、会議時間はどれくらいか。 →HRの時間を利用して、月に2回会議をする。時間は原則50分。 ○議題は事前に決まっているのか、資料は出るのか。 →職員会議の議題整理。 ○全員がどこかの分掌に所属しているのか。 →希望を聞いてから委嘱する。分掌によって学校が運営されている。 ○将来構想委員会の現在の課題は何か。 →分掌組織の見直し、修学旅行の調整、授業力向上研究の推進、教育課程の検討。 (2)施設について ○施設の外部への開放はどのようにしているのか。 →南高校文化スポーツクラブ加盟している11団体にセミナーハウス1Fミーティング ルーム等。南高ホールではPTA合唱団が週に一回程度使用。 体育館は部活動優先なので貸し出していない。小学校、保育園との交流でプラネタ リウムを使用。 ○生徒の夜7時の完全下校は守られているか。 →生徒の安全管理上及び、学習時間の確保のためほぼ守らせている。 ○施設設備は授業改善との関係で何が不足しているのか。 →クーラーの設置が必要。夏期補習は大変多くなっている。窓の開閉等安全面からも クーラーは必要である。 ○教室にモニターが設置されていたが、校内LANなどICT環境は不十分とのことだが、

<p>ヒアリング 内容</p>	<p>そこに問題はないのか。講義形式の授業をするために2分割したわけでは無いはずだから、ICTの整備などから授業を変えていくことも大切。 →校内LANは検討中。建物の構造上、地震発生時の脱出しにくい構造の教室や教室の出入口にも問題がある。</p> <p>2 学校・保護者・地域の連携協力の状況</p> <p>(1)個人情報保護</p> <p>○個人情報保護の観点からUSBはどれくらい使っているのか。 →現在は個人所有のものを個人が業務に用いている。USBは公費で買うよう調整中。</p> <p>(2)災害対策について</p> <p>○生徒への災害への対策はどのようなか。 →災害等については防災カードを作成している。災害時には6方面に別れ、集団下校する。緊急対応では電話回線が3回線しかない場合、200軒を超す家庭に緊急連絡をすることは不可能。</p> <p>○緊急メールの配信システムは無いのか。 →受信装置を購入してくださいとは言えないので難しい。</p> <p>(3)クレーム対応、同窓会等外部との関わり</p> <p>○部活動などの事故の対応は十分か。クレームなどはあるか。 →クレームは年に10件以内、主にバス乗車に関する苦情。</p> <p>○地域の活動を活用している例があるか。 →運動系部活ではバレー、陸上が小中学校と連携しており、教科では教育基礎が連携している。</p> <p>○同窓会との連携はどうか。 →同窓会と後援会、PTAがある。後援会、同窓会で授業料免除の生徒に教科書の支給を行ってきた。</p> <p>○県ではボランティアの単位化は整備済み。ボランティアを奨励するための情報などは教育計画にどう盛り込むか、地域との関わりが必要だと思う。</p> <p>○東京では奉仕を必修化した。 →横浜も社会貢献の体験活動を必修化した。が、単位認定という考え方は取っていない。横浜市立高校版学習指導要領を現在策定中であり、3年間で30時間の奉仕活動を盛り込んでいる。港南区のロータリークラブには卒業生もいて、連絡すれば連携も可能である。リーダーを育てるなら異学年との交流を増やした方が良い。南高は単位制でも年次で動いている。保護者、地域も良き協力者である。</p> <p>○南高校の教育目標で他者との関わりを上げているが、学校が方向付けて行かないと始まらない。将来のリーダー育成なら、若い人や地域の人と接したりするボランティア体験などが欠かせないはずである。</p> <p>○好きなことだけやるのではなく、異年齢との関わりから学ぶことも必要。</p> <p>(4)ホームページ</p> <p>○HPの更新は定期的にやっているか。 →HPの更新が出来ない人がその分掌を担当しているので、定期的な更新は困難。</p> <p>○技術と企画戦略は分けて考えないといけない。</p> <p>○保護者としては、HPは一斉に情報が得られるので重宝する。</p> <p>○HPの更新は生徒にやらせるという考え方もある。</p> <p>○HPを作るのもリーダー育成の一つである。</p> <p>(5)学校評価について</p> <p>○教員が一生懸命やっていることが知られていない。市民に対して、市立高校は頑張っていること、そしてもっと良くするためにはどうしたらよいか、という視点での評価をしたい。</p>
---------------------	--

ヒアリング 内容	<p>3 生徒との懇談（生徒会役員生徒）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○選挙の投票率はどれくらいか。 →90%程度。 ○部活と生徒会は両立できるか。 →両立できることを伝えたい。 ○部活に入っている人は挙手してほしい。 →入っていない人の方が少ない。 ○生徒会の仕事はどんなことか。 →役職の仕事と、12ある委員会のサポート。 ○南高のアピールをしてほしい。 →南高祭が感動的。委員会が主体的。部活も勉強も有りでメリハリがある。生徒主体の校風。先生が生徒会活動をサポートしてくれていることに感謝。生徒活動の歴史が素晴らしい。全ての行事を生徒主体でやっていることが誇り。先生と生徒の距離が近い。生徒がしたいことが出来る学校。 ○勉強はどうか。日本の高校だけが世界から取り残されている。先生が1人でしゃべっているだけで、生徒は50分我慢しているというようなことはないか。 →先生によって雰囲気が違う。数学と社会は説明型でしか授業できない教科だと思う。英語のAETとはコミュニケーションする授業になっている。高校は大学受験があるから授業は型どおりにしかできないと思う。勉強する生徒は、施設等を有効に使って学習しているが、やらない人は全く勉強しない。行事に熱を入れる学校なので、定期テストの回数を少なくして欲しい。 ○テストの回数が減ると内容が増えるのではないか？ →行事が多いから、授業が進まない。テストに出すほど内容が進まないのに、次のテストが来るので先生も困っている。行事の合間の勉強ではテスト勉強も有効に出来ないの、回数を減らしてテストとテストの間隔を広くした方が良い。 ○進路はいつ決めるのか？ →科目選択の時にほぼ決める。2年生の今頃。
-------------	---

<横浜市立南高等学校訪問調査>【第2日目】

日 時	平成20年10月24日（金）午後1時～午後6時10分
視 察 者	横浜国立大学教育人間科学部教授 福田幸男、横浜市立大学副研究院長 千賀重義 横浜市根岸地区センター館長 遠又英雄
対 応 者	学校長 手老貞行 副校長 金山康男、緑川あつ子、教務部主任、進路部前主任、総務主任、 生徒指導担当、生徒会担当
時 程	<p>13:00 学校集合</p> <p>13:05 挨拶（校長） スケジュール説明（副校長）</p> <p>13:10 施設・授業見学（5校時・6校時の授業）</p> <p>15:00 南高校からの説明（校長、副校長、教務部主任、進路部主任等）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各教科等の状況（教務部主任）（15:00～15:20） <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育課程の状況 (2) 教科指導の状況 2 各教科等の状況（15:20～15:30） <ol style="list-style-type: none"> (3) 進路指導の状況 3 質疑応答（15:30～16:00） 4 生徒の状況（16:00～16:30） <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒指導の状況 (2) 特別活動の状況 (3) 環境教育の状況 5 質疑応答（16:30～17:00） <p>17:10 部活動見学（17:10～18:00） 生徒へのインタビューを含む（17:10～18:00）</p> <p>18:10 終了</p>

<p>ヒアリング 内容</p>	<p>1 各教科等の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単位制といいながら、必修、必修選択を中心としている。生徒が選ぶ部分が少ないのではないか。生徒からの不満はないのか。 <ul style="list-style-type: none"> →入学前の学校説明会で説明しているので、生徒は納得しており、選択が少ないとの声はない。 →2, 3年は、自由選択、総合選択で興味・関心により選択しており、満足度は高いと思われる。生徒による授業評価にもそれが表れている。 ○系列は5つ設定してあるが、生徒はどのくらい意識しているか。また、選択に関して生徒が相談できる体制になっているのか。 <ul style="list-style-type: none"> →系の認識を生徒は持っていない。相談に関しては、個人面談も行っているし、選択科目の質問については、各教科で対応している。 ○理科離れは、高校段階の指導では手遅れなのか。 <ul style="list-style-type: none"> →中学は実験等を取り入れ、興味を引きながらやっているが、中学と高校の授業のギャップが大きく、高校はレベルを下げながら指導している。40人に対し、時間をとりながら個々に指導しているのが現状。 ○中一ギャップが話題になっているが、高一にも同じような問題があるのではないか。学びの連続性の部分で、中高ではうまくつなげていく工夫がされているか。 <ul style="list-style-type: none"> →中学の教科書を見て、学習内容を再確認している。 ○生徒はいつ、どのようなことを契機に進路が分かれるのか。 <ul style="list-style-type: none"> →選択科目を決めるときが契機となる。11月に選択科目を提出する。1年である程度方向付け、2年で進路が決まる。 ○11月では早過ぎないのか。 <ul style="list-style-type: none"> →12月に希望した生徒が少人数の場合、選択科目講座を開校するか閉講するかを決め、教育委員会に提出しなければならない。しかし中には、進路が揺らいでいる生徒もあり、3月に変更する場合もある。 ○数学が何点以上でなければ選択できないなどのハードルを設けているのか。 <ul style="list-style-type: none"> →設けていない。生徒がフリーに選択科目を選んでいるが、時間割の都合上、何人かの生徒に取り直しをしてもらう場合もある。 ○単位制では、先生の授業が優しい、厳しいという情報が、易きに流れるという問題はないのか。 <ul style="list-style-type: none"> →選択時に、選択科目名だけで教員名はわからない。 ○科目によって先生の甘さはあるか。 <ul style="list-style-type: none"> →推薦で良い成績が欲しい生徒が、試験がない科目を選んだりする事が稀にはあるが、基本的には自分の関心でとっている。3年の方が、1, 2年に比べれば成績は良くなっている。 ○教員の負担が偏ることはないのか。 <ul style="list-style-type: none"> →18時間を基本とし、均等になるよう講座を決めている。 ○教員が本意な科目を担当する場合はあるのか。 <ul style="list-style-type: none"> →地学専門の教員が物理・化学を持つなど、理科・社会ではある。 ○教育基礎Ⅱはどのような内容か。 <ul style="list-style-type: none"> →今年教育基礎を担当している5人も初めて授業を持っている。来年は発展であり、先生のみねごと、補助、短時間の授業を行ったりし、リーダー性を養い、感性を磨く内容である。 ○本学でも、入学生のために横浜スタンダードという教員を養成するための、4年間のプログラムがある。最初の段階で、何を求めているのか参考にして欲しい。生徒が子供と親しむことが大切、生徒とのかかわりにウエイトを置いて欲しい。 ○教育基礎は全国に先駆けているので、PRしたい。 ○進路に関して、生徒の満足度はどうか。 <ul style="list-style-type: none"> →満足していると思う。 →指定校受験が以前は多かったが、現在は減っている。また、以前は入りたい大学ではなく、妥協して入れる大学に入学していたが、指導の結果、入りたい大学を受験するようになってきた。
---------------------	--

ヒアリング 内容	<p>○学校の努力もあって進学率は3年間上がっている。入れる大学から入りたい大学へ行くようになっていく。</p> <p>→ここ数年間で今年一番、私学が伸びた。今年は特に浪人生が頑張った。今は入りたい大学の指導をしている。</p> <p>○卒業後の浪人生に対しても、支援をお願いしたい。</p> <p>2 生徒の状況について</p> <p>○学区制の変更に伴い、学校内でのトラブル、問題行動を起こす生徒はあまりいないと認識して良いのか。</p> <p>→他校から比べると少ないと思う。</p> <p>○先生の相談体制や相談窓口はどのようになっているか。</p> <p>→生活部で相談係、カウンセリング室の設置、養護教諭の2名体制。担任レベルで対応し、その後生活部へという方法もある。</p> <p>○スクールカウンセラーはいないのか。</p> <p>→いない。今年から養護教諭が複数体制になった。1名はカウンセリングができる。</p> <p>○不登校だとか保健室登校など、教室の入れない生徒はいるのか。</p> <p>→不登校は把握していない。</p> <p>○そのような子供たちの居場所はあるのか。</p> <p>→カウンセリングルーム、保健室などであるが、図書館司書等が対応することもある。</p> <p>○廊下での生徒の挨拶は気持ちよかったが、教室では寝ている生徒がいる。私語もある。大学では教官が制止できないこともある。教室でのモラルの指導はどうか。</p> <p>→基本的に「人の話は聞くこと」「私語はやめること」等、全体では話をしている。</p> <p>○南高ホールでの集会では静かにしているか。</p> <p>→内容による。修学旅行関係では賑やかになり、人権の講演では静かである。</p> <p>○南高は活動が盛んなのが特色だと思うが、学業の位置付けはどうなっているのか。</p> <p>→日々の学習、特別活動、部活動が本校の三本柱である。この三本柱のバランスが良いことが理想である。年次が上がるにつれ生徒の自覚も高まる。</p> <p>○家庭の学習時間に塾の時間は入っているのか。どのくらい塾へ行っているのか。</p> <p>→いろいろな解釈で回答していると思う。1, 2年は塾へは行っていないが、3年はかなり多い。学習環境調査では、1, 2年の学習時間が短い、特に2年が短い。</p> <p>→2年の学習時間の少ないのは、部活動の中心となっているから。</p> <p>9, 10月は行事が過密であり、試験も5回になった。行事の精選は難しい。</p> <p>○学習に十分な時間がとれているのか。部活のために入学したのではないが、学校での特色を考えると、部活をどのように位置づけるかが大切。部活動の支援体制で、教員の負担はどうなのか。</p> <p>→文系と運動系では負担が違う。運動系の方が厳しいという印象を持っている。</p> <p>→複数顧問で負担を軽減させたい。</p> <p>○外部からコーチを頼まないのか。</p> <p>→市から7名の非常勤講師、後援会で6, 7名のコーチを補助してもらっている。</p> <p>土、日に試合があり、教員の疲労を軽減しなければならない課題がある。</p> <p>○睡眠時間はどれくらいとっているのか。また、食事はちゃんと摂っているのか。</p> <p>→学校として把握はしていない。</p> <p>○携帯電話の対応はどうなっているのか。</p> <p>→本校では特に禁止していない。授業中に携帯が鳴らないように指導している。</p> <p>○アルバイトはどうなっているのか。</p> <p>→基本的には禁止。家庭の状況もあり、家庭での判断をお願いしている。</p> <p>○植樹はしているのか。</p> <p>→生徒も大切にしている。</p> <p>→技術員が担当しているが、地域のボランティアや生徒も草むしりなど行っている。</p> <p>○ボランティア等地域に出掛けることはあるのか。</p> <p>→ボランティアで行っている生徒もいる。教育基礎でも小中学校へ手伝いに行っている。運動会や、部活のボランティアなど一部実施している。</p>
-------------	--

ヒアリング 内容	<p>○自己評価書に基づき、訪問調査も加味して第三者評価を行う。市立高校の改善を図るメッセージとして発する。委員の意見を汲みながら、南高が良い環境で学習できるようにしたい。</p> <p>3. 部活の生徒との懇談 <女子生徒></p> <p>○南高校を選んだのは、部活動が盛んだからか。 →そうです。</p> <p>○部活動の時間は、長い、短い。 →2分割されているので短い。</p> <p>○単位制で良かったか。 →良かった。</p> <p>○必修科目と選択科目では、どちらが楽しいか。 →選択科目。</p> <p>○文系か理系、決まっているのか。いつ決めたのか。 →2年の選択時に決めた。</p> <p>○文系か理系、誰が決めたのか。 →自分で決めた。</p> <p><男子生徒></p> <p>○南高校を選んだのは、部活動が盛んだからか。 →部活ではない。</p> <p>○これから帰って勉強するのか。 →テスト前なので勉強します。</p> <p>○睡眠時間は、どのくらいか。 →7時間以下。</p> <p>○文系か理系、いつ決めたのか。 →中学校1年生。</p> <p>○将来の仕事は決めているのか。 →二名（建築関係）</p> <p>○先生になりたい人。 →一名</p> <p>○大学に入ったら何をしたい。 →目標に向かって、勉強したい。</p> <p>○南高校の施設に満足しているか。 →満足している。</p>
-------------	--

<第3回評価委員会>

日 時	平成21年2月9日(月) 18時30分～20時00分
開催場所	関内駅前第1ビル2階 202会議室
出席者	福田 幸男、小松 郁夫、千賀 重義、上野 淳、田中 時義、石井 紀光、 稲田 廣、長島 由佳、遠又 安雄
議 題	報告事項 平成21年度 入学者選抜について 議題1 南高等学校の第三者評価について 議題2 平成21年度 横浜市立高等学校評価委員会のスケジュールについて
決定事項	1 本日の会議を非公開とする。 2 南高等学校の第三者評価決定。 3 来年度の訪問調査の対象校（3校）については、事務局で調整する。

委員の
主な意見

議題1 南高等学校の第三者評価について

I-1 学校の管理運営等の状況

- 1日目、バス通学であるが、整然と通学できている。高校生としての基本的なマナーが守られている。生徒の質の高い学校であることがわかった。生徒の持てる力を向上向上させることができたかどうか、学校の教育力の問われるところ。
- 学校組織のマネジメント、単位制の活用に課題を感じた。
- 2日目、図書館運営がきちんとできている。「フーコーの振り子」など活用できていない設備もある。立派な施設を維持することの難しさを感じた。単位制にふさわしく生徒が科目を選択できているかが気になり。生徒にとって部活動と学習活動がどのような重みがあるのかを聞き取りした。学習活動についての充実感が不足していると感じた。
- 立派な施設を活用するための投資が市としても必要。プラネタリウムの活用、フーコーの振り子が壊れたまま。市が施設を維持するための経費をどうするのか。教室の空調設備は市としては拡大する計画はないのか。
- この施設が不足しているという指摘ではなく、学校としてどのように施設を使っているかを評価することが必要なのではないのか。
- 不足している施設は設置者に対して第三者が指摘することも必要であるし、維持管理をどうしているかについては学校を評価することが必要である。

I-2 学校・保護者・地域の連携協力の状況

- 連携の対象である「地域」という概念の中に中学校を入れるかどうか。中学校訪問をどれくらいしているかなども大事な視点である。
- 部活動連携や小学校の運動会の手伝い、プラネタリウムを近隣小学生や幼稚園生に見学させるなど比較的良く連携している。

II-1 各教科の状況

- 学生に高校や中学を評価させると、部活動と学校行事が充実している学校が良い学校であると答える。生徒の評価はそういう面に傾きがち。しかし、それで良いのか。日本の教育は学力保障することができているか。振り返ったときに学校行事によって人間形成ができた学校に感謝する気持ちはわかるのだが。
- 南高の学生は高い資質を持って入学した。しかし、十分な力を付けて卒業したのかという点検がいかない。行事や部活は充実していると言うことはわかる。生徒会活動も充実している。それらが、高校生活への満足につながる。しかし、高校は何をすべきところかという点検をしたときにそれで良いのかという検討が大切なのではないか。
- 南高は国公立難関私大への進学率がこの三年で上昇していることを高く評価したい。
- 高校では基礎的な学力を付けて欲しい。それはどの大学に入っても同じことだと思う。大学進学の際に合格すると評価されると言うことと基礎的な力を付けたかどうかということは少々違う。さらに、バイタリティがあって元気な人間として育てるという課題はまた別である。
- 先生が自分たちの授業を分析して改善していこうという姿勢が見えることも評価できる。

II-2 生徒の状況

- 部活動に特徴があつて保護者も理解している。部活動をやりすぎなので精選するべきだという意見がみられる。文武両道という観点で、再び前の議論に戻る内容になる。
- 廊下を歩いている生徒が上を向いて明るい。挨拶をしている。心の充実はありそうである。
- 南高には不登校の生徒がいないのでスクールカウンセラーもいないということか。市立高校では全校にカウンセラーは配置しないのか。
→必要な高校には最小限派遣している。

III 総合評価

- 我々が考えるこの高校のイメージとして、絶対評価として考えるのか、それとも、その高校としての付加価値をどう重視するかという視点が大切。イギリスでは最初は絶対評価的であったが、いまではその学校の伸び率を評価している。
- 高校は小中と比べて入学者選抜の結果があるので、そのこととの比較で、他校と比較して伸び率が評価できるのではないか。
- 進学実績を見る時は、現役の実績を評価しないと学校の力を評価したことにならない。
- 現役ならそこそこの進学、浪人ならもう少し良い進学をする。だとすれば、元々持っていた資質を使っているだけなのではないか。次の課題として、どのようなデータを持って評価するかということが我々の課題となる。
- 来年度以降どのようなデータで評価することが適切かが自分たちの宿題。良い高校はどのような学校か。評価活動を通して学校をよくする手伝いをする。今までと違いかたちで刺激を受けることが大切。安住しているところについては指摘する。学校を良くするための評価として機能しないといけない。

議題2 平成21年度 学校評価委員会のスケジュールについて

- 金沢の問題は問題有りとすれば、事務局で検討して評価対象校として欲しい。倍率については事務局で原因をとりまとめて次回教えて欲しい。
- 各学校の自己評価が充実しているとスムーズに進む。
- 21年度は概ねこのスケジュールで行なう。(一同了承)

◆ 横浜市立高等学校評価委員会 委員構成 (委員は50音順)

	氏名	所 属 等
委員長	福田 幸男	横浜国立大学教育人間科学部教授
副委員長	小松 郁夫	玉川大学教職大学院教授
副委員長	千賀 重義	横浜市立大学副研究院長
委 員	石井 紀光	横浜青年会議所 副理事長
	稲田 廣	横浜市立中学校長会 (本牧中学校長)
	上野 淳	首都大学東京大学院教授
	田中 時義	神奈川県立横浜緑園総合高等学校学校長
	遠又 安雄	横浜市根岸地区センター館長(元横浜市立高等学校校長会長)
	長島 由佳	横浜市PTA連絡協議会 副会長